

## 5. 今月のピックアップ「ナシの黒星病について」

### 被害の様子

葉、葉柄、りん片、花そう基部、果実、新梢に発生します。

多発すると早期落葉を起し、樹体の衰弱、果実肥大の抑制、商品性の低下など収量および品質に影響を与えます。



図1 花そう基部での発生



図3 果実の裂果

(三重県中央農業改良普及センター原図)



図2 葉での発生



果実は、幼果時に感染すると黒いすすのついた病斑を作ります。

病果が肥大すると病斑部がかさぶた状になり裂果の原因になります。(図3)

### 伝染の経路

病原菌は、前年の芽のりん片や被害落葉で越冬します。

翌年、芽のりん片の病斑は芽基部に侵入拡大し、分生子を形成します。また、被害落葉では落葉上に子のう胞子を形成します。

子のう胞子や分生子は3月中旬頃から形成され、5月下旬頃まで降雨で飛散して第一次伝染源となります。その後、病斑上に形成された分生子は、降雨時に分散して二次伝染を繰り返します。

10～11月にはりん片感染が盛んになり、被害落葉とともに翌年の伝染源となります。

### 防除対策(防除のポイント)

- 1) 防除適期は開花期(4月中旬)～7月上旬です。特に重要な防除時期は、4月中旬(開花期)～5月上旬(開花20日後頃)と6月下旬(同65日後)～7月上旬(同85日後)です。
- 2) 同一系統の薬剤を連用すると耐性菌を生ずる恐れがあるので、作用特性の異なる薬剤をローテーション散布してください。
- 3) 落葉は、休眠期に集めて土中に埋設する等処分してください。
- 4) りん片発病芽は開花始めまでに基部から切除してください。
- 5) 秋期の徒長枝への防除は、第一次伝染源を少なくすることになり、翌春の発病を抑制します。
- 6) 窒素肥料過多の園は発病が多くなります。

花そう基部には、開花期頃に発生します。(図1)

葉は、開花2週間後頃以降に葉裏の葉脈に沿って黒いすすが盛り上がったようについた春型病斑(図2)と夏から秋にかけて葉裏にうっすらとすすをつけた病斑を点々と生じる秋型病斑があります。他にも葉脈上でない部分に角張った小さな病斑を生じる場合もあります。